現地スタッフ報告会発表資料

H22.9.5　　田辺　文

2009年6月メータオクリニックへ派遣

『・・・軍政は反政府の少数民族組織「カレン民族同盟」（KNU）への攻撃も強める。この10年で最大規模と言われる攻勢は、数カ月前から始まり、避難者は1万人を超え、3千人近くが国境を越えてタイ国内に流入した』

毎日新聞　2009年5月

メータオクリニックはバンコクから500km北東、国境に接したメソトという町にあります。国境の反対側はカレン州。ビルマの中でもっとも民族紛争が激しい地域のひとつです。私が赴任した時期は、雨期にも関わらずカレン州で大きな戦闘があり、新しい難民が大量に流入した直後でした。しかし、いつもどおりの穏やかさもありました。

国境の町メソト

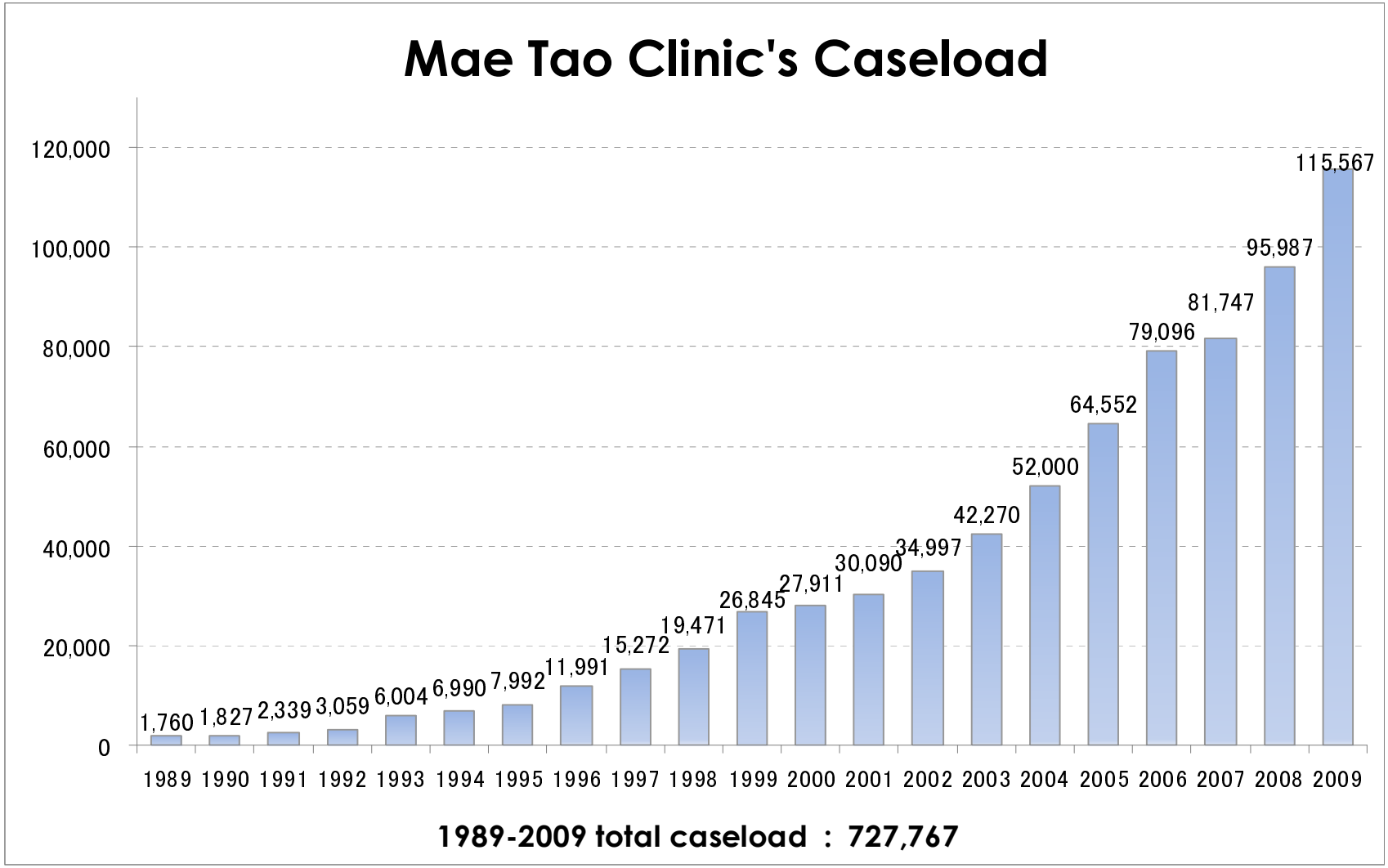
これが国境のモエイ川です。左奥に見えるのが、タイ・ミャンマー友好の橋。タイ人、ビルマ人ならパスポートなしで最長7日までの渡航が認められており、1日約1500人のビルマ人、500人のタイ人が行き来しています。

しかしさらに多くの人たちが、ゴムうきわのボートで不法に国境を渡ります。国境警備に当たるタイとビルマの軍も黙認しています。メータオクニックの職員も患者さんの多くもも、こうした不法入国、滞在者です。

メータオクリニックとは

- ビルマ民主化闘争および民族紛争より逃れた難民/移民により1989年設立
- 拡大を続けるタイ側ビルマ移民/難民、ビルマ国境地域の国内避難民、ビルマ国内の「医療難民」に無償医療を21年間提供し続けている（欧米を中心とする海外からの寄付により運営）
- 医療機関から、教育、社会サービスを提供する複合コミュニティサポート機関へ発展

左が開院当時、右が現在の待合所の様子です。1989年カレン人の女性ドクターシンシアが診療所を始めたのは、私と変わらない30歳の時でした。現在多くの人がクリニックの内外に住み、学校も運営する大きな村のような施設に発展しています。



メータオクリニックの症例数です。毎年前年を上回る患者さんが訪れ伸び率も上昇。予算を決定する上で、次年の患者数を予想するのが難しい状況です。

メータオクリニックでの仕事

外科（外傷）病棟での診療補助と新人スタッフ教育

院内感染予防チームの一員として衛生行動の
モニタリングとフィードバック
感染予防の観点から内科病棟の改築をプラン

学校保健チームとともに学校保健調査
遠隔地にある移民学校に対する校舎の改築や机、水ポンプの支援による環境整備

外科病棟

皮下膿瘍などの感染　工場での小外傷

　　戦争被害者の経過観察

40人のメディックと家族が入院患者のケアを行う

外科病棟で治療に当たっているのは全く知識のない状態でクリニックに就職し、クリニックで独自に教育を受けたメディックを呼ばれる医療スタッフです。多い疾患は皮下膿瘍などの感染症や、周辺の工場での機械事故などの小外傷です。看護職がいないのでケアは家族の役割。クリニックは泊り込みで世話をするそういった家族の食事も提供しています。私はここで診療補助と、新人スタッフへ基礎外科手技や解剖、骨折の治療などのトレーニングをいたしました。

院内感染予防

月に1回の衛生行動チェック
アルコールボトル、マスク、滅菌機の寄付
内科病棟の改築 （手洗い施設、隔離病棟）

メータオクリニックは、結核、コレラなどの呼吸器感染、膿瘍などの軟部組織感染が多く院内感染予防が重要です。月に1回感染予防チームと共に各病棟を回り衛生行動チェック。その後のフィードバックを行いました。滅菌機の故障が続いたため、新しい機械を皆様からの御寄付より送らせていただきました。また右のように状態の悪かった内科第2病棟を、安全性を高めた感染隔離等とするための改築をはじめました。（個人寄付金および大阪コミュニティ財団助成金より）

移民学校保健

1万人以上の児童が62の学校で学ぶ

農村地域の新流入家族、保護者のいない児童ほど状態が悪い

健康・基礎教育の問題が解決しても労働機会や進学の問題が残る

メータオクリニックは1000人規模の移民学校を直接運営する他、62の教育施設（2010年現在）の食糧支援や、教師への保健トレーニングを行っています。海外からの支援により移民の子どもたちも教育を受けられるようになりました。しかしタイでの生活が長期化し進学や就職といった新たな問題が出てきています。

写真　左：JAMの支援した水ポンプ　右：Green Water 学校の子どもたち

メータオクリニックは
タイのビルマ難民/移民のための病院？

患者さんの半数はビルマから来ている
首都ヤンゴンや西ビルマから旅する人も・・・・

川の向こうはどうなっているのか？

無償診療や教育を行うことでビルマの自立発展を妨げているのでは？

メータオクリニックは、タイに住む移民/難民のための病院と思われる方が多いのですが、実際患者さんの半分はビルマ側から来ています。そういった説明をすると左のような質問を受けることがあり、私自身もビルマ国内の状況に疑問を持たざるを得ませんでした。

ビルマの保健指標

	ビルマ	タイ	日本
一人あたりの国民総所得	$220	$2,840	$38,210
千人あたり乳児死亡率	49人	9人	1人
千人あたり5歳未満の幼児死亡率	98人	14人	4人
低栄養児率（2000−2007）	32%	9%	—
一人あたりの医療に関する政府予算（ビルマ、タイ：2006／日本：2008）	$1	$73	$3,850

Source: UNICEF. All figures are for 2008.

ビルマの保健指標はとなりのタイと比べて格段に差があり、医療へ割かれている国家予算も少ない。いろいろな要因があるかと思いますが、医療を受けにくいという背景がうかがえます。

Comparing of Basic Health Indicators: Eastern Burma

	千人あたり乳児死亡率	千人あたり5歳未満の幼児死亡率
ビルマ東部の紛争地域 （BPHWT 2004）	91人	221人
ビルマ全体 （UNICEF 2007）	74人	103人
タイ （UNICEF 2007）	6人	7人
ソマリア （UNICEF 2007）	88人	142人
コンゴ民主共和国 （UNICEF 2007）	108人	161人

メソトの接している東ビルマでは状況はさらに深刻です。長引く民族紛争により国のサービスはもちろんのこと、海外からの支援も入れない状態です。（この数字はバックパック医療団という避難民地域で活動するヘルスワーカーからのレポートによります。非常にデータがとりにくい地域と状況のため参考程度にご覧ください。）

なぜタイに来なくてはならないのか？

＜患者＞

・薬代、診療代が高くて払えない
・賄賂を払わないと医者や看護師に診てもらえない

＜学校生徒＞

・家族に政治活動者がいると学校に行けない（思想による差別）
・教科書や制服が高い
・家の周りが時々攻撃されるので安全じゃない
　（大人は畑があるので残った）

メータオクリニックや移民学校を利用する患者さんや生徒に上のような質問をすると頻回に得られるのはこのような答えです。戦火や貧困からタイへ逃れた人の他にも、教育や医療を求めて国境へ来る人々も多く、「医療難民」「教育難民」といわれることもあります。

これからも移民/難民
そして、クリニックの利用者は増え続ける・・・

【ビルマ側要因】

終わらない民族紛争
低い雇用機会
不十分な社会サービス（医療、教育）

【タイ側要因】

経済発展
移民/難民への対応の軟化（海外からの支援）
第3国定住など、海外流出の機会

大規模な移民/難民問題の背景にあるこうした状況は今後も続き、メータオクリニックと移民学校の役割と責任は今後も重くなってくることが予想されます。

メータオクリニックの限界

・長期治療が必要な患者や
　重症患者に対応できない

・100%欧米諸国の支援で運営
　している
　　＝自立のめどが立たない

　メータオクリニックの限られた設備では治療能力が限られ、重症患者さんは欧米のファンドに個別に頼んで治療のできるタイの施設に送っていました。治療費が得られない場合にはそのまま帰ってもらうしかなくつらい思いもしました。また住所の定まらない流動的な患者さんには、耐性菌・ウイルスの問題からHIVや結核など長期の内服が必要な疾患の治療ができず、実際治療できたのはほんの一部です。
　もうひとつの大きな問題は、政府がない移民コミュニティには、公的な補助によって教育や医療といった社会サービスを自立させるめどがないことです。

もうひとつの私の仕事・・・

カップルの写真を撮る！

ビルマの無医村から難民キャンプから
勉強の機会とチャンスを求めてやってくる若者たち。
メータオはそんな彼らの出会いの場所でもありました。
いつもカメラを持ち歩いていた私は、
そんなメータオカップルの写真を収めプレゼントする。
いつしか付き合い始めると、写真を撮れとせがまれるようになり
すっかりゴシップおばさんになりました。

メータオクリニックで働く600人

ビルマ国内の無医村から
難民キャンプから
知識と期待とチャンスを求めてクリニックで学ぶ

しかしその多くが
ビルマ国内で勉強を続けることも活躍することも
メソトから出ることもできずに
国境地域に閉じ込められ
膨れ上がっています・・・。

文化的、経済的にも発展したビルマの
長期の戦火や政情不安によって
国境地域には

貧困、低栄養、医療不足など、基本的生存に関わる問題
教育、仕事、アイデンティティなど社会的な問題

さまざまに次元の異なる問題が混在しています。

JAMはまだまだ微力ですが

複雑な問題を抱えるメータオクリニックと
ビルマの人々をこれからも応援していきます。

今後ともよろしくお願いいたします。